

2016年11月26日

武漢 4000 箇所の電気自動車充電スポットが共通に

昨日、武漢市は電気自動車充電サービス連盟を設立した、加盟する各社アプリを通じて、市内の8割以上、約4000カ所の充電スポットを見付けることができる。

連盟は、東風電動車、武漢供电公司、武漢電動汽車師範運営公司、青島特来电、万帮星星充电、聯城融通科学技术共同が共同発起人となり設立したものであり、武漢市内の主要な電動自動車製品会社、エネルギー供給業者、充電施設製造業者、充電運営サービス業者を含む。

現在、建設済み充電ステーションは100棟以上があるが、充電スポットの建設を担当する企業は10社余りあり、それぞれ基準が違い、インターフェースも違うので、ユーザが充電する時に多数のカードが必要で多数のアプリを利用しなければならない。また、車の持主がマッチングする充電スポットが見つけれず、充電がとても難しいという状況が発生している。一方、多くの充電ステーションは誰も訪れずに飾りものとなっている。

電気自動車連盟の設立は上記の問題を解決するためである。連盟設立後へ加盟企業の充電スポットは位置データをアプリで共有し、アプリを使えば連盟内のスポットの場所を検索することができる。現在、武漢市は1059カ所の充電スポットをシステム内に取り込んでいる。近い将来、4000カ所まで増加させ、市内全域充電スポットの80%をカバーする予定である。

2016年11月30日

樹木発電により、スマート融雪

昨日、湖北省重大科学技術成果推薦会資源環境分野の会議が武漢で行われ、46項目の資源環境分野における重大科学技術成果が資本市場の注目を惹き付けた。

樹木発電、重金属のモニタリング、汚泥処理、生活污水浄化、自動車排気浄化処理……。このたび、推奨する46項目の重大科学技術成果は、いずれも資源環境と持続可能な発展に関するサービス分野についてである。

樹木が生長する時の自然な吸引力による発電、マイクロモータシステムと光電センサを動かし、地下配管のネットワーク、路面交通と低空汚染物の排出に対してタイムリーに監視と警戒をする。武漢大学動力と機械学院教授胡雪蛟が紹介するには、実験中、高さ約5メートルの木一本が、一日に蓄えたエネルギーは夜間のLEDランプ一個の照明には十分であり、街灯に樹木発電を利用すれば多くのエネルギーを節約することができる。その成果はすでに国家の特許を得ている。

冬場、道路が凍ることにより、渋滞と交通事故の原因となっている。武漢迈克斯热能技术有限公司の“智能化電加熱路橋融雪氷溶解システム”が正確に路面の温度状況を測量し、道路に雪が降りつもり、凍り始める前に電気を通すことにより、適時路面を融雪するとともに、環境保護、省エネを実現することができる。